



「シリーズですが、住み心地はいかがでしょう。」
「家族4人とも大満足です。前の家はここより広かつたけれど、住み心地はこちらの家が断然上です」

より快適な住みよさを追求したプラン設計。畠中氏による意匠。そのふたつが融合されたキアラシリーズ。誰にでも住みやすく、デザイン性に富んだ住宅ができあがりました。ご自身もキアラシリーズに住む藤江社長が言います。

「オーナーの好みが強く反映され、た注文住宅は、他の人には住みにくいました。」

敷地25坪に広く住む。

可能にしたのは道内初の工法。マンションなら100平米前後と考えていたM夫妻にとって、キ

孫の代に残せる、堅牢な家に仕上がりました。

この家に住んで、Mさん宅の暮らしは大きく変化しました。もともと仲のいいご家族の会話が、以前に増して多くなりました。「(家族が)どこにいてもわかるので、いつも家族をそばに感じられる。そんな安心感のある家ですね」と奥様。郊外からの通勤通学がなくなり、時間の余裕も生まれました。

地下鉄利用圏のブランドホームで、ストレスのない毎日を送る。街中に住まうことを漠然と諦めている方が多い中で、キアラシリーズは、新たな選択肢と言えます。「街中の『戸建て』『地下鉄利用圏の一戸建て』が、決して夢ではないことを、キアラ麻生ステーションは物語っています。

シリーズですが、住み心地はいかがでしょう。

「家族4人とも大満足です。前の家はここより広かつたけれど、住み心地はこちらの家が断然上です」

くい場合があります。キアラは企画住宅ですから、どなたが住まわれても快適であることが重要。それでいて、今までの建売では満足できないという方々のニーズにお応えしたいというのが、発想の原点です。

洗練と機能を満たすキアラシリーズは、建売住宅の分野に新風を吹き込んだようです。

アラ麻生ステーションは予定以上の広さ。敷地約25坪に3階建てを建てることで、延べ床面積40坪を確保。高い吹き抜け、ビルトインガレージも組み込まれています。

これらを可能にしたのは、北海道で初施工の「門型ラーメンフレーム」。広い居住空間と高い耐震性を実現する次世代・木造住宅工法です。この工法を採用したのは、家の資産価値を高めるため。子供や孫の代に残せる、堅牢な家に仕上がりました。